

2024年度 日本老年看護学会 生涯学習支援研修  
管理者編 アンケート集計結果報告書

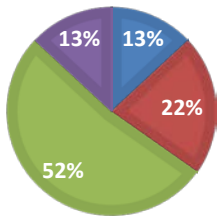
2024年11月15日

1. 開催日時：2024年10月13日（日）13:30～16:30
2. 開催場所：日本教育会館702号室
3. 参加人数：24名（会員：15名 非会員9名）
4. テーマ：高齢者看護質向上のための看護管理者研修
5. アンケート結果（回収数23名 回答率96%）

《回答者概要》

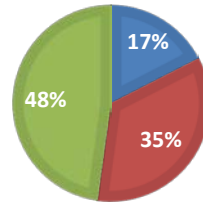
### 年代

■ 30歳代 ■ 40歳代 ■ 50歳代 ■ 60歳以上



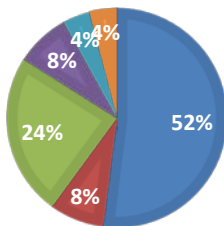
### 経験年数

■ 10～20年 ■ 21～30年 ■ 31年以上



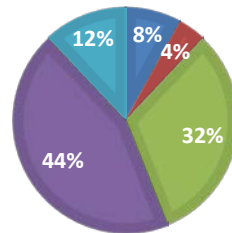
### 所属

■ 急性期病院 ■ 回復期RH病院  
■ 療養病床 ■ 介護老人保健施設  
■ その他 ■ 未回答



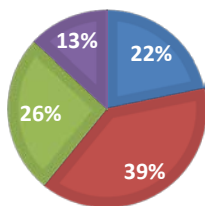
### 職位

■ 副院長・看護部長等 ■ 看護副部長等  
■ 看護師長等 ■ 主任・副部長等  
■ 認定看護師



### 職位経験年数

■ 1～3年 ■ 4～9年 ■ 10年以上 ■ 未回答

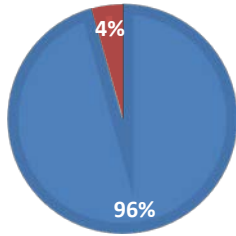


## 《研修内容について》

### 1) 満足度・活用度

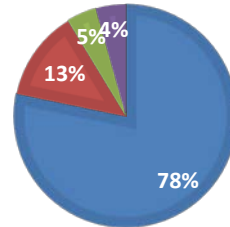
・研修内容は満足できましたか

■満足できた ■まあまあ満足できた



・研修内容は現場に活用できそうですか

■活用できる ■まあまあ活用できる  
■どちらでもない ■未回答



### 2) ご意見、ご感想をお聞かせください

#### 〈満足、活用できる〉

- ・GWで他病院の人と困りごとをディスカッションできた。
- ・CNS、CNとの連携、スタッフへの心理的安全性の確保、医療安全への取り組み等たくさん学べた。
- ・看護部トップのビジョンや具体的なプランを知ることができ、今後自身の活動に活かしたいと思う。トップを巻き込む、トップの感情をどう動かすのかが課題です。
- ・すべてのプログラムにおいて学びがありました。私自身がチームをうまく活動できないと思うのではなく、本日の学びをCNとしてどう施設での活動にいかすのか考えなければならなかった。
- ・問題の背景を分析し、戦略を立てる。その事例をトップマネージャーから具体的に聞くことができた。
- ・自病院の中での悩み、思いが他施設の方も同じ思いの人がいることがうれしかった。
- ・覚悟が持てた。
- ・倫理的感受性について、他病院での取り組みや効果について聞くことができ、とても参考になった。同じような困りごとを持っている管理者も多く、そのような方の話を聞け、明日からの活力になった。
- ・身拘束ゼロへの取り組みは「覚悟」しか必要ではないのかもしれない。管理者として同じ立ち位置で意見交換できたことで明日からの意欲が上がるような時間になった。
- ・今は部署をもってないのですが、専従のDCNとして管理的な視点やスタッフや病棟師長とどのように取り組んでいったらよいかのヒントになった。
- ・最小化という言葉に抵抗があるので、「身体拘束ゼロ化」がとてもよい。まずは医院長、看護部長と協議したい。
- ・高齢者看護（認知症看護やせん妄ケア）などを振り返るよいきっかけになった。初心、忘れることなく実践を継続していきたいと思った。
- ・日頃の自分の実践を振り返る良い機会となった。(2)
- ・短い時間でしたが有意義であった。(3)
- ・職場、職位が異なるものでのGWは参考になる部分もあるが、同じもの同士でより困りごとや課題対策を検討しやすいと思った。大変勉強になった。

#### 〈どちらでもない、未回答〉

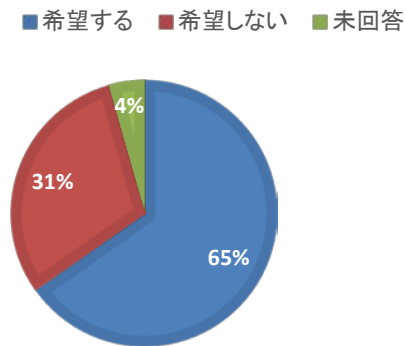
- ・質向上に活用出来たらよいなと思う。
- ・とても参考になったのですが、今の現場で活用するための課題が多く・・・、でも頑張ります。

3) 貴施設の高齢者看護質向上のために、今後どのような内容の看護管理者研修が必要と思いますか。研修のテーマなど、ご要望をお書きください。

- ・倫理的視点、倫理的感受性 ・身体拘束(3) ・ELNEC-JG(2)
- ・フレイル予防 ・認知症ケア加 ・医療安全と高齢者看護 ・高齢者ケア ・ACP
- ・人、高齢者の尊厳 ・スペシャリストの活躍 ・SWOT分析 ・管理の視点
- ・看護部長、副部長の考える高齢者看護(対象者をしぼる、必須研修してほしい)
- ・看護管理者レベル別(部長、師長等)のGW ・病院以外の管理者研修 ・風土づくり、組織づくり
- ・高齢者ケアの充実に向けた看護管理 ・同じ施設から複数名受講 ・管理者の皆に受講してほしい。

4) 高齢者看護質向上について、本学会で看護管理者様のご相談にのることや、何らかのご支援ができませんか検討しています。

〈本学会による看護管理者への「相談・支援」のご希望がありますか〉



〈希望する場合、どのような「相談・支援」をご要望ですか〉

- ・身体拘束ゼロ化に向けて ・CNS、CNの協働 ・高齢者看護の質向上の実践など
- ・現場のことがリアルに伝わる研修、講義 ・メール、施設見学(取り組みの現状を知る)
- ・定期的な情報共有できる会の開催(地区別など) ・話を聞き、一緒に考えてもらうという場
- ・日々の看護実践の中から必要な時にお願いをしたいと思います。今は特にありません。
- ・データの活かし方 ・チームの活用(運営)、作り方

5) 今回の看護管理者研修をどのようにお知りになりましたか。(複数回答)

